

物を追求した先進国にはなくなったすばらしい人間の世界

なんとも気障なタイトルをつけてしまいました、これは、私がタンザニア、NGUDUに赴任して最初にもらった手紙の中に記してあった一言です、もう帰るといふ今ごろになって実感しているのでタイトルにしてしまいました。確かにタンザニア人だめだと思います。あんまり努力しないで人に頼るし、外国人だと思ふとすぐオンバしてくるし、ぼったくるし、アジア人を馬鹿にするし、“すみません”が言えないし、わかんないトピックはとぼしちゃうし、カンニングするし、答え教えあって共倒れするし……と文句をあげればきりが無いタンザニア人でしたが、居たんですよそんな中にも**すばらしい人**たちが、そしてあったんですよ**すばらしい人間の世界**が（あんまり居ないけど）皆さんもう既にこんな人たち、こんな世界に出会っていると思いますが、私の出会いをここに紹介しましょう。

それは、Mr. B (NGUDU Secondary School 初代校長)、と Mr. L (我家のムリンジの一人) なんです。我家のムリンジ Mr. L は Mr. B が探してきてくれたんですが、彼は一人で約3ヶ月間一日も休むことなく勤めたムリンジなんです（日本だったら当たり前ですか？）。たとえ熱があつて私が見て明らかに病気でも来るんです（これも日本だったら当たり前ですか？）。私が見かねて休めといつても、「俺が居なかったらお前の家を見張るやつが居なくなるから休めない。」といつて来るのです（これも当たり前ですか？）。また、何度か夜に泥棒未遂が来たことを報告してくれた時、私は、「もし銃を持った強盗が来たら無理しないで、周りに知らせながら逃げろ。」と彼に言うのですが、彼曰く「だめだそれは出来ない。Mr. B に『Kazi fanya vizuli. 菅原の家をよろしく』といわれているから逃げられない。俺は最後まで戦う。」と、最後にはこう言ったのです。「もし、お前の家の外で何かあつても外に出て来んなよ。このいえよく出来ているから中に居れば大丈夫だから。」と。（さすがに日本でもここまで言ってくれる人いないでしょ！）。

私はこんなすごいヤツに日本じゃ会ったことがないし、こんな信頼関係を日本じゃ見たこともありません。日本から来たよくわからん、スワヒリ語も下手くそな“mchina”にここまでしてくれる彼らって素敵だと思いませんか。もし、日本で私が警備員として外国人に雇われたとき、たとえ口先だけでもここまで言えません。

今だから言えるけど赴任した頃、しばしば夜中に家の戸をノックされて毎晩その時間になるとノックされなくても目がさめていました。しかし、彼が来てくれるようになって、彼と話をするようになって、彼を信頼するようになった今では毎晩爆睡です。彼の当番の時には夜中に投石があつても気づかない事もあるくらい安心しきっている今日です。（次の日には彼がきちんと前の晩のことを知らせてくれ、私の緩んだ気持ちもきちんと引き締めてくれますし。）他にも色々あるのですが、私にとって、こんな彼に出会い、すばらしい人間の世界を垣間見ることが出来たこの2年とても有意義でした。

私はこの2年間で配属先の学校のために何かできたか、生徒達のために何か出来たかわかんないけど、だけど NGUDU で2年間活動できて本当によかった。そしてこんな素敵な人達に出会えて本当によかった。いつか転勤していく同僚教師が私に「自分がこの世にある限り、お前のこ

と忘れない。」と言っていたが、いま本当にその気持ちです。『彼らとは、私が死ぬまで？死んでも友達でありたい。』

タンザニア最高とは言いません、けっこう嫌なこともあったし、つらいこともあった。でも、NGUDUの人たち最高だー。あーもう帰るんだよな。俺、彼等に何もしてあげられなかったな、さんざん世話になっておきながら。

なんかくさくさってしまいましたね。 やっぱり文章にすると安っぽくなりますね。 これを読んで私のこと単純だ、思い込みすぎだ、と感じる人もいるでしょう。それでもかまいません。そう感じるあなたはまだ出会ってないだけです。このすばらしい人間の世界に。

なので、皆さんに、2年間短いですけど、こんな素敵なお人たちに会えるといいですね。日本人でも白人でも良いんですよ出会うのは、でもせっかくタンザニアに来たんだからタンザニア人だったらもっといいと思いませんか。

そして最後に質問があります。皆さん本当にタンザニア、タンザニア人のために一人の人間、日本人として何か出来ていると思いますか。世界有数の経済大国、先進国である日本から来て、お金を使う以外に何か彼らのために出来ている、出来ると思いますか。私は2年間、教師一人分には足りなかったかもしれないけど、セカンダリースクールで授業を行いました、支援経費で教科書も買いました。しかし、それだけでした。残念ながら一人の日本人、人間として彼らのためにお金を使う意外には、何もできていないと思います。情けないですよ。お金がなくなったら何もないんですよ。タンザニアは、確かに貧しい国ですよ、経済的には。だけど、私達、日本人て人間的にもっと貧しくないですか？ 世界有数の援助国の日本人なんですが。 援助ってなんですか？ お金使うことですか？ 物造ることですか？ そのお金本当にタンザニアのためになっていますか？ 本当に必要としている人のところに届いていますか？ もちろん援助の資金源である税金を払っている大多数の日本人は、とても役に立っていると思っているでしょう。こんな私もここに来るまではそう思っていました。でもどうなんですかね？ これから jica は成果重視になるらしいですが、援助の成果って数値で評価できるんですかね？援助の成果ってすぐに評価できるんですかね？

まあ、何はともあれ私が一つ間違いないと言えるのは、2年間ずうーっとタンザニア人に世話になり続けたということです。そして、形として見える成果は何一つの残せなかったということです。(世界有数の援助国、経済大国の日本から来て。) もし私が何か残せたとするなら、それは私が二年間で接することの出来た人たちの心の中にあるのかもしれませんがね。勿論そんなもの援助の成果としてはゼロに等しいのでしょうか？

でも、この2年間の隊員活動すばらしいものだったとおもいます。私が俺自身で評価します。何も他人の評価なんて必要ないでしょ。何も出来ていないと悩んでるあなた、自分で自分を評価してください。自分が納得できたらそれで十分じゃないですか。納得できなかったら、納得できるようにやってください。それでもだめなら、またやり直せばいいじゃないですか。人生90年 まだまだ長いよ、『好きなことやらないと、笑って死ねない。』 杳沢朝治。

それでは、また何処かで逢いましょう。『本当の出会いに別れは来ない』と言って帰った隊員も居ました。私は皆さんとの出会いを本当の出会いだと思っています。だからお礼もお別れも言いません。お世話になった人には今度あったときにお礼します。

14 年度 1 次隊 理数科教師
NGUDU Secondary School
ittuan